

### CL の課題「観察」力を高めるチャンスと俳句

—相談室ベターズ—

小木 晴代

h-ogis8doCL@tbz.t-com.ne.jp



令和2年には、「いままで苦手な手を出さずにいたことをやる」を目標の一つにしようと決めて、何にするか探していた矢先に、「句会にご一緒しませんか」と誘われました。これこそ、あこがれるだけで私には手が出ない世界と思っていたことでしたから、チャンス到来。でも、心の中は、今更、いい年をして恥をかきに行くんかという暗い気持ちでいっぱいでしたが、ボケ防止にはよさそうと思うことにしました。

1月の集まりには見学者として参加、2月には俳句を4作もって参加しました。参加者の句を書き写すのは、使ったことのない漢字や表現を覚え、作った方の感性をうかがい知る機会です。

レイノルズ先生から観察の質問がある度に、観察不足を思い知らされていましたが、これからは、俳句の題材を探すためにも、「観察、観察」。

ある寒い日に、保育園の園庭片隅にアロエの花が咲いているのを見つけました。見過ごしていたものが目に飛び込む実感があります。五七五、季語を意識して、頭の中は常に、言葉が右往左往しています。母の手作りの紙雛で一句作りたいたいと持っているうちに、季節は桜のころになりました。

お花見といえば、ハンセン病の患者さんたちが住む新秋津の全生園に行ったことが忘れられません。社会と隔離されていた時代に外部の方と花見をすることを夢見て苗木を植えたと聞きました。見事に大木になった桜の木の下で、全生園に住む平沢さんたちと楽しい花見をしたことは貴重な体験、懐かしい思い出です。これも一句にしたいなと思って、言葉をころころ転がしている最中です。

コロナ騒ぎで自宅にいたことが多くなったある日、久しぶりに這いつくばって拭き掃除をしました。明り取りのために一部ルーバー型になっているトイレのドアに黴を見つけました。下から見上げてみつけたものです。夏井いつき先生の「おうち de 俳句」という本に、「浸かる湯の天井に黴見つけたり」という句が紹介されていますが、我が家の黴は、まだ句になっていません。

(千葉県千葉市インストラクター)